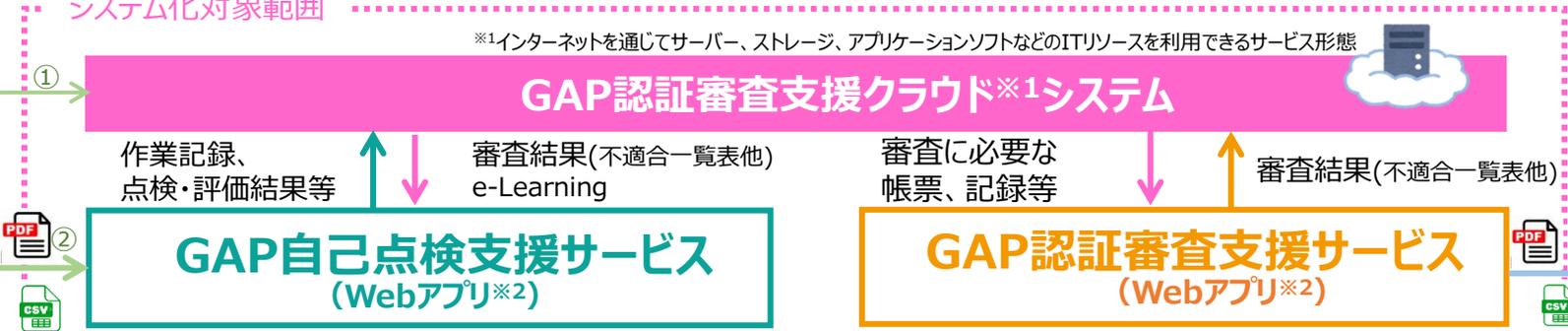
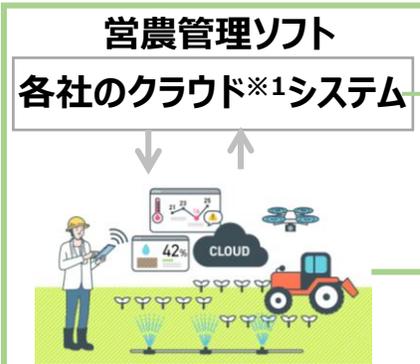


GAP認証審査支援システムの概要

対象：GLOBALG.A.P.、ASIAGAP、JGAP



■ 支援システムとのデータ連携手法
以下2つの手法について、各社と協議し選択する。

①API※2連携：
支援システムが各社の営農管理ソフトと直接データをやり取り。
(各社ソフト側の改修が必要)

※2Application Programming Interface

②電子ファイルを介したデータ連携：
営農管理ソフトから出力した記録等の電子ファイル(PDF、CSV等)や、該当頁のURL、画面のスクリーンショットなどを、支援サービスの関連適合基準に添付し連携。(ユーザーがデータを貼り付ける手間はあるが営農管理ソフト側の改修は不要)



※2いつでもどこでもどの端末からでも、複数の端末での同時アクセスも可



～GAP自己点検支援サービスの主な特徴～

- サンプル帳票・記録類のダウンロード、適合基準の詳しい解説・マニュアルが閲覧可能
- 帳票・記録類(紙・電子)、営農管理ソフトから出力した営農記録、URL、画像ファイル(該当画面のスクリーンショット等)等を関連する適合基準に添付可能
- JGAP管理点の理解、基準文書に関する最新情報など認証取得に必要な知識をe-Learningにて習得でき、受講履歴は関連適合基準に自動的に反映



～GAP認証審査支援サービスの主な特徴～

- 審査対象者(生産者)の自己点検結果(審査に必要な帳票、営農記録など)を事前確認可能
- GAP認証の適合基準を満たしているかの自動確認
- 現場での要確認項目など、チェックを入れた項目に絞った表示や担当者の選定
- 前回の審査から変化がない項目や不足している記録内容を自動抽出
- 審査結果、不適合一覧の自動出力

■ 支援システムとのデータ連携手法

(電子ファイルを介したデータ連携)
支援サービスから出力した「審査結果報告書」や「不適合一覧表等の電子ファイル(PDF、CSV等)を各認証機関のシステムに添付し連携

※認証機関各社のサーバにて管理している基幹システムとのAPI連携は、セキュリティ面、コスト面等の観点から妥当ではないとの見解が多いため検討せず

GAP認証審査をサポートする「GAP認証審査支援サービス」と日々の生産者の営農管理をサポートする「GAP自己点検支援サービス」で構成。この2つのサービスがクラウド上のGAP認証審査支援システムを介してデータ連携することにより、認証機関(審査員)と生産者との双方向コミュニケーションをデジタルで支援する。

➡日々の営農管理データや、GAP審査に必要な帳票、記録等を適合基準に関連づけて添付・確認でき、認証審査時のエビデンスの検索や確認を容易に行えたり、審査の結果(アドバイスやコメントなど)や不適合項目の一覧表など、クラウドを介して生産者にフィードバックできるなど、認証審査に係る業務の効率化が期待できる。

